

平成 28 年度 実施事業の概要

教育事業名： 豊かな実践活動・体験活動推進フォーラム

期間 平成28年11月5日(土)～11月6日(日)

対象及び参加人数： 学校教員 自然体験活動指導者 大学生 その他 120名

目的：

体験活動の意義について、幼児教育、学校教育、青少年教育の視点から広く発信する。

事業概要：

全国小学校学校行事研究会との共催事業として、青少年教育施設職員、教育行政関係者、青少年団体関係者、学校教員、自然学校といった民間教育団体関係者等が一堂に会し、体験活動の充実のための基調講演及びシンポジウム等を実施した。また、指導者間のネットワークを拡げることをねらいとして、学校教育・青少年教育・幼児教育の3分科会を開催した。団体間の貴重な情報の交換・交流の場となった。

成果：

以前より妙高では、全国小学校学校行事研究会と連携し実施していた本フォーラム、数年実施が途絶えていたが、今年度各位の協力により、再び実施にこぎつけることができた。運営にあたっては、元文部科学省初等中等教育局視学官・元国立妙高青少年自然の家所長宮川八岐氏から全体指導をいただくことができた。

基調講演では、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官安部恭子氏をお迎えし、「青少年の体験活動に関する調査と次期学習指導要領改訂に向けて」と題してご講演をいただいた。改訂が直近に控えているタイムリーな話題提供となり、参加者からも好評だった。

シンポジウムでは、「豊かな実践活動・体験活動をどのように行うか」と題して、様々な領域の実践家を進歩時ストに招いた。様々な立場からの発言に参加者は熱心に耳を傾けていた。

分科会では、学校教育・青少年教育・幼児教育の3分科会を開催し、地元妙高以外からも多数ご発表いただき、ご本人からしか聞けない実践上の苦労や工夫などを知ることができた。参加者と発表者・参加者間の有意義な意見交流の場とすることができた。



課題：

青少年・学校教育・幼児教育にかかわる様々な実践の交流ができる貴重な場となっている。学校関係者の参加者が多い傾向があるが、それ以外の参加者についても多方面からの参加者を募りたい。